

# 日本柔道史年表 1966→1975

渡邊 昌史 (早稲田大学)

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
昭和41 (1966)	<p>3.10 「講道館柔道試合審判規定」改正 「規程」→「規定」。近代的柔道の意義を大いに盛り込み、国際的な利用と範囲を加味した。投げられた者の全身が場外に出ても効果が認められるようになった。危険防止として、試合畳を128畳にして広げ、次に50畳を設えとした。など。なお、この年は試合場の段差が解消された。</p> <p>3.10 第1回柔道指導者講習会(全柔連主催)実施 -12</p> <p>4.30 全日本柔道選手権大会(日本武道館) ①松永満雄(四国)、②坂口征二(推薦)、③松阪 猛(四国)、前島延行(東海)</p> <p>6.18 第15回全日本学生柔道優勝大会(日本武道館) -19 中央大が初優勝、②日本大、③天理大、同志社大</p> <p>6.26 第4回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合(警視庁武道館) 軽量級5名、中量級6名、重量級9名の計20名による点取り試合。全学生は世界学生選手権に代表を派遣したせいもあり、最下位に低迷。全警察が初優勝。</p> <p>7.10 第16回全日本実業団対抗柔道大会(福岡市) 1部・倉敷レイオンが博報堂を代表戦3回目で降し優勝。2部・①東洋レーヨン、②博報堂</p> <p>7.23 第40回金鷲旗争奪高校柔道大会(九電記念体育館) ①鎮西(熊本)、②鹿本(熊本)、③中津工業(大分)、柳川商業(福岡)</p> <p>8.1 第15回全国高等学校柔道大会(青森市) 団体:①鹿児島実業(鹿児島)、②崇徳(広島)、③砺波(富山)、南筑(福岡)。個人:軽量級・藤木隆男(盈進)、中量級・河原月夫(中京商業)、重量級・一戸隆男(鎌倉)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.28 全日本招待選抜柔道体重別選手権大会(九電体育館) 九州柔道協会・西日本新聞社の共催。全柔連後援。以降、体重別の大会が恒例化した。軽々量級・稲田 明(福岡大)、軽量級・中谷雄英(三菱レイオン)、中量級・遠弥信一(東洋レーヨン)、重量級・松永満雄(高知県警)がそれぞれ優勝。</p> <p>10.18 全国警察柔道大会(日本武道館) 団体A:①大阪、②愛知。団体B:①兵庫、②熊本。個人:軽量級・富士岡 登(熊本)、重量級・岩釣兼生(兵庫)がそれぞれ優勝。中量級は痛み分けで優勝預かり、坂田伝実雄(兵庫)、土山 宝(京都)</p>	<p>5.28 第1回アジア柔道選手権大会(フィリピン・マニラ) 全階級制覇。軽量級・①山崎祐次郎(天理大)。中量級・①関根 忍(中央大)。重量級と無差別はいずれも前島延行(三菱重工)と佐藤治(倉レ)の決戦となり、前島が二冠。無差別・③関根 忍</p> <p>6.26 第1回世界大学柔道選手権大会(チェコスロバキア・プラハ) 第3回欧州学生柔道選手権大会より名称変更。日本は団体優勝。70kg級・①園田義男(福岡工大)。80kg級・①栗原泰郷(日本大)。93kg級・①笹原富美雄(天理大)、②笹川正明(東洋大)。篠巻政利(明治大)は93kg超級と無差別では笹原を下して二冠。</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>10.24 第21回国民体育大会柔道競技(大分市) 競技 -26 別総合・①大分。一般男子・①愛知、②京都。教員 男子・①大分、②福岡。高校男子・①静岡、②千葉</p> <p>11.5 第18回全日本学生柔道選手権大会(大阪府立体 -6 育会館) 軽軽量級・東 秀光(大阪商業)、軽 量級・田畑隆璋(国士館)、中量級・山下雅之(早 稲田)、重量級・須磨周司(明治)、超重量級・西村 昌樹(拓殖)、無差別・山本裕祥(明治)がそれぞ れ優勝。</p> <p>11.6 第18回全日本学生東西対抗柔道試合(大阪府立 体育会館) 初の引分。</p> <p>11.10 第15回全国青年大会柔道競技(講道館) 団体: -11 ①品川区。軽量級・井上和雄(愛知)・和泉 豊 (福岡)、中量級・大谷賢慈(大阪)、無差別・竹内 政光(東京)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.13 第2回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育 館) 東洋レーヨンが初優勝、②警視庁、③大阪 府警、天理大学</p> <p>11.23 第14回全日本産業別柔道大会(講道館) 機械 部門が優勝。</p>	
<p>昭和42 (1967)</p>	<p>3.15 講道館柔道試合審判規定に追加して、「柔道試合 における礼法」を制定、実施。</p> <p>3.27 全国高校選抜チーム、米国へ アメリカ柔道有 -4.16 段者会の招きで役員・選手16名が米国遠征を行っ た。以降毎年、柔道を通じた国際交流を実施。</p> <p>4.29 全日本柔道選手権大会(日本武道館) 中量級の -30 岡野 功(近畿)が初優勝、負傷のため世界選手 権は辞退。②佐藤宣践(東京)、③佐藤幸二(東 北)、松阪 猛(近畿)</p> <p>6.4 第17回全日本実業団対抗柔道大会(名古屋市) 1部・①博報堂、②旭化成。2部・①八幡製鉄堺、 ②東レ愛知</p> <p>6.13 全柔連専門委員会 全柔連理事会において、財 務、審判規定研究、審判員選考、アマチュア資格審 査、強化、普及研究、国際、国体の8専門委員会の 構成が決定した。</p> <p>6.24 第16回全日本学生柔道優勝大会(日本武道館) -25 ①天理大、②拓殖大、③中央大、明治大</p> <p>7.2 第5回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合(警 視庁武道館) 軽量級5名、中量級6名、重量級 9名の計20名による点取り試合。三者とも1勝1敗 の同率で優勝は預り。</p>	<p>6. 日ソ親善柔道大会 5階級各2名ずつの団体 戦。大阪大会(9日)6-2で勝利を収めるも、全 日本選手権者・岡野 功がサンボの選手に開始 20秒で腕挫十字固に極められ完敗。九州大会 (11日)11-4、東京大会(13日)5-0と3連勝</p> <p>6.13 日ソ対抗柔道大会(ソ連) 選手11名を派遣し て、各地で3試合を行い、8-1、6-1、7-0で圧 勝した。</p> <p>8.8 国際柔道試合審判規定の制定 IJF総会で決 定。翌日の世界選手権から採用</p> <p>8.9 第5回世界柔道選手権大会(アメリカ・ソルトレイ -11 クシティー) 6階級中5階級を制覇。軽量級・ ①重岡孝文(大分上野丘高教)、②松田博文(関 西大)。軽中量級・①湊谷 弘(天理大出)、③</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>7.22 第41回金鷲旗争奪高校柔道大会（九電記念体育館） ①鎮西（熊本）=V2、②福岡電波（福岡）、③鹿児島実業（鹿児島）、鹿児島商業（鹿児島）</p> <p>8.5 第16回全国高等学校柔道大会（高岡市） 団体：①鎮西（熊本）、②砺波（富山）、③崇徳（広島）、嘉穂（福岡）。個人：軽量級・鹿子木信一（山鹿）、中量級・野村豊和（天理）、重量級・新保正明（工学院）がそれぞれ優勝。今大会より、個人試合3階級の体重区分を変更した。軽量級58kg→60kg、中量級68kg→70kg、重量級68kg超→70kg。</p> <p>9.10 第6回全日本実業団東西対抗柔道大会（愛媛県立体育館） 西軍、不戦1人で初優勝。</p> <p>10.1 第15回全日本東西対抗柔道大会（宇都宮市） 再び、所属都道府県選手1名を含む30名編成の勝ち抜き試合となった。西軍、不戦2人で連勝。</p> <p>10.23 第22回国民体育大会柔道競技（秩父市） 競技別総合・①大阪。一般男子・①大阪、②福岡。教員男子・①大分、②愛知。高校男子・①奈良、②広島</p> <p>11.4 第19回全日本学生柔道選手権大会（大阪府立体育会館） 軽量級・水信 健（国士館）、軽中量級・田畑隆璋（国士館）=V2、中量級・園田 勇（福岡工業）、軽重量級・野口泰三（青山学院）、篠卷政利（明治）、無差別・笹原富美雄（天理）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.5 第19回全日本学生東西対抗柔道試合（大阪府立体育会館） 東軍、不戦2人で優勝。</p> <p>11.8 全国警察柔道大会（日本武道館） 団体A：①警視庁、②大阪。団体B：①愛媛、②宮城。個人：軽量級・東 秀光（岐阜）、中量級・平尾勝司（長崎）、重量級・岩釣兼生（兵庫）=V2、がそれぞれ優勝。</p> <p>11.9 第16回全国青年大会柔道競技（講道館） 団体：-10 豊田市。軽量級・山内勝治（長崎）、中量級・桜井豊（北海道）、無差別・矢野久男（東京）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.19 第3回全日本選抜柔道団体優勝大会（愛知県体育館） 大阪府警が初優勝、②博報堂、③明治大、天理大</p> <p>11.23 第15回全日本産業別柔道大会（講道館） 織維部門が優勝。</p>	<p>中谷雄英（三菱レイヨン）。中量級・①丸木英二（丸木木材）、③遠弥信一（東洋レーヨン）。軽重量級・①佐藤宣践（博報堂）、②佐藤治（倉敷レーヨン）。重量級・②前島延行（三菱重工）、③松阪 猛（大阪府警）。無差別・①松永満雄（大阪府警）、③篠卷政利（明治大）</p> <p>日本選手団：団長・浜野正平（強化委員長）。監督・松本安市（天理大教）。コーチ・神永昭夫（富士製鉄）</p> <p>日本人審判員：久永貞男（強化委員）、広瀬 巖（大阪府警）、大澤慶己（早稲田大教）。今大会より、IJF国際審判員制度が実施された。</p> <p>8.27 ユニバーシアード東京大会柔道競技（日本武道館） 全6階級及び団体優勝。軽量級・園田義男（福岡工大）、軽中量級・山崎祐次郎（天理大）、中量級・園田 勇（福岡工大）、軽重量級・二宮和弘（天理大）、重量級・西村昌樹（拓殖大）、無差別・篠卷政利（明治大）がそれぞれ優勝。</p> <p>9.6 第2回世界大学柔道選手権大会（ポルトガル・リスボン） 6階級中5階級を制覇、団体戦は失点ゼロの完全優勝。軽量級・水信 健（国士館大）、中量級・橋本 昇（天理大）、軽重量級・須磨周司（明治大）がそれぞれ優勝。重量級は日本勢同士の決勝、中川良夫（早稲田大）が高木長之助（日本大）を下し制す。</p> <p>10.7 アジア柔連総会（講道館） 嘉納履正・会長、広瀬祐一・事務総長が再任された。</p>
昭和43 (1968)	<p>2.3 日本武道学会 発足</p> <p>4.27 嘉納師範三十年祭 挙行</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>4.28 全日本柔道選手権大会 (日本武道館) 松阪 猛 -29 (近畿) が初優勝、②岡野 功 (推薦)、③佐藤宣践 (東京)、松永満雄 (近畿)</p>	
	<p>5.1 「講道館柔道試合審判規定」改正 国際規定を国内でも適用してもよいと思われるものについて改正された。宣告等のゼスチャー、試合終了を表明する「それまで」を加えた。</p>	
	<p>6.15 第17回全日本学生柔道優勝大会 (日本武道館) -16 明治大が早稲田大を降して東京大会決勝の雪辱を果たし、10度目の優勝。③東洋大、関西学院大</p>	
	<p>6.30 第18回全日本実業団対抗柔道大会 (岡山市) 1部・①富士製鉄、②博報堂。2部・①富士製鉄広島、②東レ愛知</p>	
	<p>7.14 全警察・全実業対抗柔道試合 (警視庁武道館) 開催時期が遅れ、学生は不参加。軽量級9名、中量級11名、重量級15名の計25名による点取り試合。全実業が10-6で優勝。</p>	
	<p>7.22 第42回金鷲旗争奪高校柔道大会 (九電記念体育 -23 館) ①福大大濠 (福岡)、②鎮西 (熊本)、③福岡電波 (福岡)、鹿児島実業 (鹿児島)</p>	
	<p>7.29 第17回全国高等学校柔道大会 (福山市) 団体: -31 ①天理 (奈良)、②盈進 (広島)、③鎮西 (熊本)、福大大濠 (福岡)。個人: 軽量級・決勝は川口孝夫と南 喜陽の崇徳高の同門対決となり、先輩・川口が制す。中量級・藤猪省三 (天理)、重量級・松永義雄 (砺波) がそれぞれ優勝。</p>	
	<p>8.4 第2回全日本選抜柔道体重別選手権大会 (佐賀県 体育館) 大会名を改称。軽量級・東 秀光 (岐阜県警)、軽中量級・山崎祐次郎 (宮崎県警)、中量級・平尾勝司 (佐世保商高教)、佐藤宣践 (博報堂) がそれぞれ優勝。</p>	
	<p>10.2 第23回国民体育大会柔道競技 (春江町) 競技 -4 別総合・①熊本。一般男子・①兵庫、②岡山。教員男子・①大分=V2、②福井。高校男子・①熊本、②広島</p>	
	<p>10.9 「講道館発祥の地」建碑式挙行 講道館創設85周年、嘉納師範没後30周年を記念して、永昌寺 (台東区) 境内に建立。</p>	
	<p>11.2 第20回全日本学生柔道選手権大会 (大阪府立 -3 育会館) 軽量級・江種英明 (福岡工業)、軽中量級・津沢寿志 (中央)、中量級・園田 勇 (福岡工業)=V2、軽重量級・須磨周司 (明治)、重量級・中川良夫 (早稲田)、無差別・篠卷政利 (明治)=V2、がそれぞれ優勝。</p>	<p>10.23 第6回世界柔道選手権大会 (メキシコ・メキシ -25 コシティー) 全6階級制覇。軽量級・園田義男 (日本運送)、軽中量級・湊谷 弘 (金沢工大教)=V2、中量級・園田 勇 (福岡工大)、軽重量級・笹原富美雄 (神奈川県警)、重量級・須磨周司 (明治大)、無差別・篠卷政利 (富士製鉄) がそれぞれ金メダル。 軽量級・野村豊和 (天理大)、軽中量級・河野義光 (自営)、中量級・平尾勝司 (佐世保北高教) は</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>11.3 第20回全日本学生東西対抗柔道試合（大阪府立体育会館） 東軍が不戦4人で連勝。西村昌樹（拓大）が5人抜き活躍</p> <p>11.5 全国警察柔道大会（日本武道館） 団体A・①警視庁=V2、②大阪。団体B・①京都、②秋田。個人：軽量級・長谷川大恭（福井）、中量級・鳥越良雄（警視庁）、重量級・加藤雅晴（警視庁）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.11 第17回全国青年大会柔道競技（講道館） 団体：-12 区郡市から都道府県単位に変更された。愛媛が優勝。軽量級・矢田栄一（東京）、中量級・武下快夫（神奈川）、無差別・浦川真義（徳島）、沖 英明（神奈川）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.23 第16回全日本産業別柔道大会（蒲郡市） 機械部門が優勝。</p> <p>11.24 第4回全日本選抜柔道団体優勝大会（愛知県体育館） 警視庁が初優勝、②博報堂、③明治大、富士製鉄</p>	<p>日本勢決戦で2位。軽重量級・川端智幸（大分県警）、重量級・松永満雄（大阪府警）、佐藤宣践（東海大教）は3位</p> <p>日本選手団：団長・浜野正平（強化委員長）、監督・神永昭夫（富士製鉄）、コーチ・猪熊 功（東海大教）</p> <p>日本人審判員：清水正一（日本体育大教）、松本安市（東海大教）、夏井昇吉（警察学校教）</p>
昭和44 (1969)	<p>4.27 全日本柔道選手権大会（日本武道館） 小兵・岡野 功（東京）が2年ぶり2度目の制覇。②前田行雄（東京）、③村井正芳（東京）、園田 勇（九州）</p> <p>5.7 全国警察柔道選手権大会（日本武道館） 本年より、体重別個人戦が無差別の選手権として独立。決勝は大阪府警同士の松永満雄と松阪 猛の対戦となり、延長2回判定により松永に凱歌が上がる。</p> <p>6.8 第19回全日本実業団対抗柔道大会（静岡市） 本年より、勝抜き試合に変更。1部・①富士製鉄広畑、②河合楽器。2部・①三菱重工名古屋、②東レ滋賀</p> <p>6.14 第18回全日本学生柔道優勝大会（日本武道館） -15 ①日本大、②拓殖大、③近畿大、天理大</p> <p>6.22 第6回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合（警視庁武道館） 選手は軽量級5名、中量級6名、重量級9名による計20名で点取り試合。全警察が9-4で全実業、6-3で全学生を下して優勝。</p> <p>7.3 「児童生徒の運動競技について」（文部次官通達） 中学・高校の対外試合は都道府県内を原則とする。但し、中学は隣接都道府県程度、高校は地方・全国的大会への参加は、年1回程度にとどめるものとする。など。</p> <p>7.22 第43回金鷲旗争奪高校柔道大会（九電記念体育館） ①嘉穂（福岡）、②南筑（福岡）、③鹿児島実業（鹿児島）、福大大濠（福岡）</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>8.2 第18回全国高等学校柔道大会(渋川市) 団体:天理(奈良)が連覇、②嘉穂(福岡)、③前橋商業(群馬)、鎮西(熊本)。個人:軽量級・南喜陽(崇徳)、中量級・吉村和郎(柳川商業)、重量級・原吉実(南筑)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.10 第3回全日本選抜柔道体重別選手権大会(九電記念体育館) 軽量級・湊谷弘(金沢工大教)、中量級・園田勇(福岡工大)、軽重量級・笹原富美雄(神奈川県警)、重量級・篠巻政利(富士製鉄)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.16 第7回全日本実業団東西対抗柔道大会(愛媛県立体育館) 東軍、不戦1人。以降休止。</p> <p>10.17 全国警察柔道大会(日本武道館) 1部・①大阪、②警視庁。2部・①福岡、②鹿児島</p> <p>10.27 第24回国民体育大会柔道競技(佐世保市) 競技別総合・①長崎。一般男子・①東京、②兵庫。教員男子・①長崎、②埼玉。高校男子・①広島、②長崎</p> <p>11.1 第21回全日本学生柔道選手権大会(大阪府立体育会館) 本年より、体重別2階級と無差別の選手権となった。軽量級・津沢寿志(中央大)=V2、中量級・後藤誠一(中央大)が優勝。正木照夫(拓殖大)が選手権を制し学生日本一。</p> <p>11.2 第21回全日本学生東西対抗柔道試合(大阪府立体育会館) 2度目の引分。通算成績、東軍の15勝4敗2分。</p> <p>11.9 第18回全国青年大会柔道競技(講道館) 団体:再び区郡単位となると共に、一つの職場で1チームを構成する都道府県代表の2部を新設した。1部・吹田市、2部・愛知が優勝。軽量級・藤川豊久(徳島)、中量級・泉昌(和歌山)、無差別・細川美和(神奈川)、滝本光弘(福岡)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.16 第5回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育館) 富士製鉄が初優勝、②大阪府警、③警視庁、拓殖大</p> <p>11.23 第17回全日本産業別柔道大会(大阪市立修道館) 機械部門が連覇。</p>	
昭和45(1970)	<p>4. 全国中学校体育連盟柔道競技部が発足 前年7月の文部次官通達により、中学校柔道の全国組織の結成の機運が高まり発足した。</p> <p>4.26 第1回全日本柔道ジュニア選手権大会(講道館) 全柔連強化委員会は、第一線級選手の強化だけでなく、次代の担い手となる若い素材発掘・育成に</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>も力を注ぐべきであるとして、満20歳以下と年齢を限った大会を開催した。軽量級・川口孝夫（明治大）、中量級・藤猪省三（天理大）、重量級・遠藤純男（日本大）がそれぞれ優勝。</p>	
4.29	<p><b>全日本柔道選手権大会</b>（日本武道館） 世界王者の篠巻政利（新日本製鉄）が初の日本一に。②河原月夫（明治大）、③園田 勇（丸善石油）、安斉奏人（倉敷レイオン）</p>	
4.30	<p><b>全日本実業柔道連盟が全柔連に加盟</b> 昭和38年に加盟申請が出されていた。学柔連と同様に規約第5条を改正し、評議員会にて承認。</p>	5.13 ミュンヘン五輪柔道競技は6階級に IOC総会において決定。また、各国各階級2名代表の要求は認められず、従来どおり1名ずつとなった。
6.7	<p><b>第20回全日本実業団対抗柔道大会</b>（徳山市） 1部・①新日本製鉄、②東レ滋賀。2部・①新日鉄広畑、②丸善石油下津。“世紀の合併”により誕生した新日鉄が完全優勝。</p>	5.29 <b>第2回アジア柔道選手権大会</b> （台湾・高雄） -31 軽量級・川口孝夫（明治大）、軽中量級・野村豊和（天理大）、軽重量級・河原月夫（明治大）、重量級・二宮和弘（天理大）、無差別は西村昌樹（正気塾）が河原月夫を降し、それぞれ優勝。中量級・後藤誠一（中央大）は2位。国別試合も無失点で優勝。
6.13	<p><b>第19回全日本学生柔道優勝大会</b>（日本武道館） -14 ①天理大、②明治大、③拓殖大、日本大</p>	
6.28	<p><b>第7回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合</b>（警視庁武道館） 選手は軽量級5名、中量級6名、重量級9名による計20名で点取り試合。全警察が全実業と引分、学生を9-3で下し連続優勝。</p>	6.25 <b>日ソ対抗柔道試合</b> （講道館） 来日したソ連チームは、事情により選手は2名のみではあったが、3千人の観客を集めて、高校生紅白試合に続き、親善試合を行った。
7.8	<p><b>全国警察柔道選手権大会</b>（日本武道館） ①堀口憲一（熊本）、②川端智幸（大分）、③伊神重則（愛知）、山元俊隆（愛知）</p>	
7.22	<p><b>第44回金鷲旗争奪高校柔道大会</b>（九電記念体育館） ①鎮西（熊本）、②大牟田（福岡）、③嘉穂（福岡）、鹿児島実業（鹿児島）</p>	
8.3	<p><b>第19回全国高等学校柔道大会</b>（和歌山市） 団体：鎮西（熊本）が天理（奈良）の3連覇を阻み優勝。③鹿児島実業（鹿児島）、安房（千葉）。個人：軽量級・森脇保彦（崇徳）、中量級・光本正輝（天理）、重量級・須藤 十（日大山形）がそれぞれ優勝。軽量級は3年連続で崇徳勢が制した。</p>	8.4 <b>日米高校親善柔道大会</b> （和歌山） 高校総体の見学を兼ねて来日中の米国高等学校柔道親善使節団の一行と全日本高校選抜が対戦した。10-0、10-1と圧勝。この後、京都、岡山、福岡で親善試合を重ねた。
8.9	<p><b>第4回全日本選抜柔道体重別選手権大会</b>（鹿児島県立体育館） 軽量級・湊谷 弘（金沢工大教）、中量級・園田 勇（丸善石油）、軽重量級・笹原富美雄（神奈川県警）がそれぞれ連覇。重量級・高木長之助（日本大）が初優勝。</p>	
8.21	<p><b>第1回全国高等学校定時制通信制柔道大会</b> 全国高校定時制・通信制振興会を中心にして、定時制及び通信制高校生の柔道発展を目指して始まった。団体：新潟県が優勝。</p>	
8.23	<p><b>第1回全国中学校柔道大会</b>（講道館） 藤園中（熊本）が初代中学王座に。②那珂中（福岡）、③</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>大仁中(静岡)、蘇我中(千葉)</p> <p>10.11 第25回国民体育大会柔道競技(久慈市) 競技別総合・①福岡。一般男子・①東京=V2、②熊本。教員男子・①長崎=V2、②和歌山。高校男子・①福岡、②奈良</p> <p>10.27 全国警察柔道大会(日本武道館) 1部・①警視庁、②大阪。2部・①神奈川、②富山</p> <p>11.3 第16回全日本東西対抗柔道大会(奈良市) 所属都道府県選手1名を含む30名編成の勝ち抜き試合。西軍が不戦3人で3連勝。通算成績は西軍の12勝2敗2引分。以降休止。</p> <p>11.7 第23回全日本学生柔道選手権大会(大阪府立体育会館) 軽量級・津沢寿志(中央大)=V3、中量級・後藤誠一(中央大)=V2、選手権・河原月夫(明治大)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.8 第23回全日本学生東西対抗柔道試合(大阪府立体育会館) 東軍が8人を残し優勝。</p> <p>11.12 第19回全国青年大会柔道競技(講道館) 団体：高知市、角田市。軽量級・楢原和正(大阪)、中量級・今村佳史(神奈川)、無差別・立山(熊本)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.15 第6回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育館) ①明治大、②新日本製鉄、③天理大、東洋レーヨン</p> <p>11.22 第18回全日本産業別柔道大会(講道館) 繊維部門が優勝。</p>	<p>9.18 日独対抗柔道大会(日本武道館) 軽量2・中量2・軽重量2・重量3の団体11人戦を行い、9-0(2引分)で西ドイツを圧倒。</p>
<p>昭和46 (1971)</p>	<p>1.1 日本体育協会アマチュア規定の制定 「アマチュアのあり方」及び「日本体育協会アマチュア規定」</p> <p>4.11 第2回全日本新人柔道体重別柔道選手権大会(講道館) 大会名を改称。軽量級・南 喜陽(新日鉄広畑)、中量級・吉村和郎(日本大)、重量級・吉永浩二(明治大)がそれぞれ優勝。</p> <p>4.29 全日本柔道選手権大会(日本武道館) 岩釣兼生(兵庫県警)が初優勝。補欠から繰り上げ出場の佐藤宣践(東海大教)が2位。③村井正芳(新日本製鉄)、二宮和弘(正気塾)</p> <p>5.25 全国警察柔道選手権大会(日本武道館) 坂本親正(熊本)が初優勝、②西村忠由(大阪)、③川端智幸(大分)、上野武則(福岡)</p> <p>5.30 第21回全日本実業団対抗柔道大会(松本市) 1部・①新日本製鉄、②和歌山県教育委員会。2部・①三井建設、②日本運送</p>	<p>2.6 フランス国際招待柔道大会(パリ) プレオリンピックと銘打つてのヨーロッパ9カ国の招待選手権大会に、有望新人選手3名を派遣。中量級・藤猪省三(天理大)、軽重量級・河原月夫(明治大)が優勝。重量級・中川良夫(早稲田大)は準決勝で負傷棄権。</p>



年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
6.12 -13	第20回全日本学生柔道優勝大会(日本武道館) 明治大が内容差で中央大を下し、3年ぶりの優勝。③国士館大、日本大	
6.20	第8回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合(講道館) 第1試合全警察対全学生の副将戦、前田行雄(警視庁)が岩田久和(明治大)との対戦中に心筋梗塞により死亡。この事故により大会は中止となった。	
7.11	第5回全日本選抜柔道体重別選手権大会(九電体育館) “世界一”が総崩れ波瀾の大会を、軽量級・津沢寿志(正気塾)、中量級・関根 忍(警視庁)、軽重量級・佐藤宣践(東海大教)、重量級・山本裕祥(旭化成)がそれぞれ制した。	
7.24 -25	第45回金鷲旗争奪高校柔道大会(九電記念体育館) ①鹿児島実業(鹿児島)、②嘉穂(福岡)、③福岡大大濠(福岡)、鎮西(熊本)	
8.2 -4	第20回全国高等学校柔道大会(松山市) 団体:①天理(奈良)=5度目、②福岡大大濠(福岡)、③鹿児島実業(鹿児島)、習志野(千葉)。個人:軽量級・香月清人(初芝)、中量級・阪口和秋(熊本一工)、重量級・田中弘一(鎮西)がそれぞれ優勝。	
8.4	日本武道館研修センター竣工 千葉県勝浦市の太平洋を眼下に見下ろす高台に、千畳敷の道場、320余名宿泊施設等。	
8.15	第2回全国中学生柔道大会(講道館) 藤園中(熊本)が久慈中(茨城)を5-0で圧倒し連覇。③昭栄中(佐賀)、桂中(京都)。文部省が全国大会を認めず、「中学生大会」として実施。	
8.24	第2回全国高等学校定時制通信制柔道大会(講道館) 共催の全国高体連から強い要請を受け、全柔連も共催に加わった。団体:福岡が優勝。	8.29 消極的柔道に反則適用 IJFスポーツ委員会にて、「組もうとしない者」「腕を突っ張って技を掛けようとする者」に対して「指導」「注意」などの罰則を適用することに決定。
8.29	第1回全日本実業柔道個人選手権大会(大阪市立修道館) 「柔道の本質の拡大強化」として年齢別試合を新設。1部(30歳以上)・古賀 武(新日鉄八幡)、2部(25~30歳)・村井正芳(新日鉄広畑)、3部(20~25歳)・佐々木 均(旭化成)、4部(20歳未満)・南 喜陽(新日鉄広畑)がそれぞれ優勝。新日鉄勢が3タイトル獲得。	9.2 第7回世界柔道選手権大会(西ドイツ・ルドウィグスハーフェン) 6階級中4階級で日本勢の決勝、5個の金メダル。軽量級・①川口孝夫(明治大)、②野村豊和(天理大)。軽中量級・①津沢寿志(正気塾)、②湊谷 弘(金沢工大教)。中量級・①藤猪省三(天理大)、②重松正成(明治大)。軽重量級・①笹原富美雄=V2(神奈川県警)、②佐藤宣践(東海大教)。重量級・③岩田久和(明治大)、岩釣兼生は3回戦敗退。無差別・①篠卷政利(新日本製鉄)=V2、③関根 忍(警視庁)
10.13	全国警察柔道大会(日本武道館) 1部・①大阪、②警視庁。2部・①愛媛、②北海道	日本選手団:団長・浜野正平、監督・松本市、コーチ・神永昭夫、日本人審判員:醍醐敏郎、大澤慶己、橋元 親
10.25 -26	第26回国民体育大会柔道競技(和歌山市) 競技別総合・①和歌山。一般男子・①大阪、②兵庫。教員男子・①和歌山、②大分。高校男子・①和歌山、②奈良	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>11.6 第23回全日本学生柔道選手権大会 (大阪府立体育会館) 軽量級・野村豊和 (天理)、中量級・原吉実 (明治)、選手権・遠藤純男 (日本) がそれぞれ優勝。</p> <p>11.7 第23回全日本学生東西対抗柔道試合 (大阪府立体育会館) 東軍、不戦4人で連勝。</p> <p>11.11 第20回全国青年大会柔道競技 (講道館) 団体：新潟。軽量級・角田真治 (大阪)、中量級・竹中幸男 (石川)、無差別・里村敏一 (新潟) と前田敏一 (愛知) がそれぞれ優勝。</p> <p>11.14 第7回全日本選抜柔道団体優勝大会 (愛知県体育館) ①新日本製鉄、②警視庁、③神奈川県警、明治大</p> <p>11.23 第19回全日本産業別柔道大会 (講道館) 鉄鋼部門が優勝。</p> <p>11.28 第3回全日本新人体重別柔道選手権大会 (大阪府中央体育館) 軽量級・磯部正博 (日本体育大)、中量級・永野盛雄 (中央大)、重量級・白瀬英春 (東海大) がそれぞれ優勝。</p>	<p>10.22 国際学生柔道選手権大会 (ポーランド・グダンスク) グダンスクオリンピック委員会創立50周年記念として行われた。軽量級・①焼丸 真 (近畿大)。軽中量級・①吉村和郎 (日本大)。中量級・③中村茂晴 (日本体育大)。軽重量級・③中村均 (国士館大)。重量級・上村春樹 (明治大)。団体・優勝。</p>
<p>昭和47 (1972)</p>	<p>4.29 全日本柔道選手権大会 (日本武道館) 中量級の関根 忍 (警視庁) が初優勝。②岩田久和 (新日本製鉄)、③西村昌樹 (やよいエージェンシー)、佐藤宣践 (東海大教)。全試合の半分以上を判定勝が占めた。</p> <p>4.30 沖縄県柔道連盟、全柔連に正式加盟 昭和28年5月より「特別加盟」。47年5月15日をもって日本への復帰が認められることになり、いち早く沖縄県柔道連盟から正式加盟の手続きがなされた。4月30日の全柔連評議員会において、日本復帰の5月15日付をもって加盟承認と決定した。</p> <p>5.23 全国警察柔道選手権大会 (日本武道館) ①笹原富美雄 (神奈川)、②高木長之助 (警視庁)、③川端智幸 (大分)、合田多利 (警視庁)</p> <p>6.10 第21回全日本学生柔道優勝大会 (日本武道館) 明治大が連覇=12回目、②国士館大、③青山学院大、中央大</p> <p>6.18 第9回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合 (講道館) 選手は軽量級5名、中量級6名、重量級9名による計20名での点取り試合。全実業5-1全学生、全学生4-4 (内容差で学生) 全警察、全警察5-2全実業と1勝1敗となり、勝者数合計によって警察が優勝。</p> <p>7.2 第6回全日本選抜柔道体重別選手権大会 (福岡市民体育館) 軽量級・南 喜陽 (新日本製鉄)、</p>	<p>2.12 ソ連国際スポーツ大会 (トビリシ) 選手3名を -13 派遣。7ヵ国が参加。重量級・二宮和弘 (正気塾) が優勝。無差別決勝は遠藤純男 (日大) が村井正芳 (新日鉄) を背負投で破って優勝</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>軽中量級・野村豊和(博報堂)、中量級・園田 勇(福岡県警)=3度目、軽重量級・笹原富美雄(神奈川県警)=3度目、重量級・西村昌樹(やよいエージェンシー)がそれぞれ優勝。</p>	
7.9	<p><b>第22回全日本実業団対抗柔道大会</b>(広島市) 1部・①新日本製鉄、②博報堂。2部・①新日鉄広畑、②新日鉄堺</p>	<p>7.19 <b>第3回世界大学柔道選手権大会</b>(イギリス・ロンドン) 軽量級・伊志嶺朝秋(東洋大)、軽中量級・光本正輝(天理大)、中量級・吉永浩二(明治大)、軽重量級・恵谷正雄(大東文化大)、重量級・上村春樹(明治大)がそれぞれ優勝。団体も制し完全優勝。</p>
7.23 -24	<p><b>第46回金鷲旗高校全国柔道大会</b>(福岡市民体育館) ①鹿児島実業(鹿児島)=V2、②南筑(福岡)、③福岡大大濠(福岡)、鎮西(熊本)。今大会より、全柔連後援となった。</p>	
8.2 -4	<p><b>第21回全国高等学校柔道大会</b>(鶴岡市) 団体：①天理(奈良)が連覇=6度目、②鹿児島実業(鹿児島)、③砺波工業(富山)、明大中野(東京)。個人：軽量級・香月清人(初芝)=V2、中量級・藤井正人(近大福山)、重量級・内山文雄(砺波工業)がそれぞれ優勝。</p>	
8.15	<p><b>第3回全国中学生柔道大会</b>(講道館) ①藤園中(熊本)=V3、②鴨池中(鹿児島)、③国東中(大分)、磐梨中(岡山)</p>	
8.22	<p><b>第3回全国高等学校定時制通信制柔道大会</b>(講道館) 団体：神奈川が優勝。</p>	<p>8.22 <b>IJF総会</b>(ミュンヘン) イタリアから女子柔道試合についての提案がされていたが、取り下げたことにより審議の対象とはならず。次回に五大陸の各連盟で検討した規定案を持ち寄り、審議することとなった。</p>
8.27	<p><b>第2回全日本実業柔道個人選手権大会</b>(福岡市民体育館) 1部・村井正芳(新日製広畑)、2部・山本裕祥(旭化成)、3部・岩田久和(新日本製鉄)、4部・渡辺一男(新日鉄広畑)がそれぞれ優勝。</p>	
10.17	<p><b>全国警察柔道大会</b>(日本武道館) 1部・①警視庁、②大阪。2部・①熊本、②石川</p>	
10.23 -25	<p><b>第27回国民体育大会柔道競技</b>(出水市) 競技別総合・①鹿児島。一般男子・①東京、②鹿児島。教員男子・①大分、②鹿児島。高校男子・①鹿児島、②広島</p>	<p>8.31 <b>オリンピック・ミュンヘン大会</b>(西ドイツ) 6階級中軽量3階級のみ制覇。軽量級・川口孝夫(明治大)、軽中量級・野村豊和(博報堂)、中量級・関根 忍(警視庁)が金メダル。重量級・西村昌樹(やよいエージェンシー)が銅メダル。軽重量級・笹原富美雄(神奈川県警)は2回戦敗退。無差別・篠巻政利は3回戦敗退。 日本選手団：監督・浜野正平(強化委員長・ニュージャパン柔道協会)、コーチ・神永昭夫(新日本製鉄)、なお、篠巻が選手団旗手を務めた。</p>
11.4 -5	<p><b>第24回全日本学生柔道選手権大会</b>(大阪府立体育会館) 軽量級・光本正輝(天理)、中量級・宇津木房夫(早稲田)、選手権・上村春樹(明治)がそれぞれ優勝。</p>	<p>日本人審判員：清水正一(日本体育大教)、広瀬巖(大阪府警)。</p>
11.5	<p><b>第24回全日本学生東西対抗柔道試合</b>(大阪府立体育会館) 東軍、不戦5人で3連勝。</p>	
11.9 -10	<p><b>第21回全国青年大会柔道競技</b>(講道館) 団体：神奈川。軽量級・森山初男(熊本)、中量級・真鍋満(愛媛)、無差別・杉浦裕介(富山)がそれぞれ優勝。</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>11.12 第8回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育館) ①新日本製鉄=V2、②博報堂、③明治大、旭化成</p> <p>11.19 第4回全日本新人柔道体重別選手権大会(大阪市中央体育館) 軽量級・秋本勝則(鎮西高)が初の高校生王者に。中量級・塩川哲也(中央大)、重量級・奥田元則(天理大)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.23 第20回全日本産業別柔道大会(講道館) 繊維部門が優勝。</p> <p>11.25 講道館創立90周年記念式典 挙行</p> <p>11.26 講道館創立90周年記念全日本年齢別柔道選手権大会(講道館) A組(18歳未満)・①加瀬次郎(修徳高)、②吉岡 剛(嘉穂高)。B組(28歳未満)・①二宮和弘(福岡県警)、②諸井三義(神奈川県警)。C組(38歳未満)・①村井正芳(新日本製鉄)、②古賀 武(新日本製鉄)。D組(38歳以上)・①松本剛儀(佐賀県警)、②袴田 稔(神奈川県警)</p>	
<p>昭和48 (1973)</p>	<p>4.29 全日本柔道選手権大会(日本武道館) 上村春樹(旭化成)が初優勝、②高木長之助(警視庁)、③藤猪省三(クラレ)、諸井三義(神奈川県警)</p> <p>5.4 復帰記念・沖縄特別国体柔道競技(首里高校) - 5 一般20県、高校20校の代表チームの参加。一般・①熊本、②青森、③滋賀、沖縄。高校・①宮崎、②佐賀、③沖縄、広島</p> <p>5.22 全国警察柔道選手権大会(日本武道館) ①二宮和弘(福岡)、②西村忠由(大阪)、③堀口憲一(熊本)、国重健治(香川)</p> <p>6.10 第23回全日本実業団対抗柔道大会(岐阜市) 1部・①新日本製鉄、②旭化成。2部・①新日鉄広畑、②三菱重工名古屋</p> <p>6.30 第22回全日本学生柔道優勝大会(日本武道館) - 7.1 ①天理大、②明治大、③東海大、東京教育大</p> <p>7.8 第10回全警察・全実業・全学生対抗柔道試合(警視庁武道館) 軽量級5名、中量級6名、重量級9名による計20名点取り試合。昨年に続き1勝1敗で三者が並び、勝数合計により警察が5度目の優勝。</p> <p>7.23 第47回金鷲旗高校柔道大会(福岡市民体育館) - 24 ①鹿児島実業(鹿児島)=V3、②嘉穂(福岡)、③九州学院(熊本)、崇徳(広島)。今大会より、全国オープン参加となった。</p>	<p>1.27 第2回フランス国際柔道大会(パリ) 参加10カ国。出場した4階級を制覇。軽量級・南喜陽(新日本製鉄)、中量級・園田 勇(福岡県警)、軽重量級・上口孝文(出水学園教)、重量級・二宮和弘(福岡県警)がそれぞれ優勝。</p> <p>3.9 ソ連国際柔道大会(トビリシ) 3名出場。重量級・①高木長之助(警視庁)、②岩田久和(新日本製鉄)、無差別・①遠藤純男(日本大)</p> <p>6.22 第8回世界柔道選手権大会(スイス・ローザンヌ) 4階級で日本勢の決勝戦、2度目の全6階級完全制覇。軽量級・①南 喜陽(新日本製鉄)、②川口孝夫(丸善石油)。軽中量級・①野村豊和(博報堂)、③吉村和郎(警視庁)。中量級・①藤猪省三=V2、②園田 勇(福岡県警)。軽重量級・①佐藤宣践=2度目、②上口孝文(警視庁)。重量級・①高木長之助(警視庁)、篠巻政利(新日本製鉄)は1回戦で負傷棄権。無差別・①二宮和弘(福岡県警)、②上村春樹(旭化成)。日本選手団:団長・広瀬 巖(強化委員長)、監督・醍醐敏郎(強化委員)、コーチ・岡野 功(強化委員)</p> <p>日本人審判員:橋元 親(天理大教)、大澤慶己(早稲田大教)、清水正一(日本体育大教)</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>8.2 第22回全国高等学校柔道大会(名張市) 団体:①嘉穂(福岡)、②鎮西(熊本)、③崇徳(広島)、高松工芸(香川)。個人:軽量級・望月充久(清水市商)、中量級・戸田 聡(日大藤沢)、重量級・山下泰裕(九州学院)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.15 第4回全国中学生柔道大会(仙台市) ①九州学院中(熊本)、②嵯峨中(京都)、③大橋中(兵庫)、辰野中(長野)</p> <p>8.26 第3回全日本実業個人選手権大会(大阪市修道館) 1部・藤猪省三(クラレ岡山)、2部・鳥海又五郎(博報堂)、3部・深沢嘉直(博報堂)、4部・横田輝隆(新日鉄堺)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.26 第4回全国高等学校定時制通信制柔道大会(講道館) 団体:山形が優勝。</p> <p>10.15 第28回国民体育大会柔道競技(館山市) 競技別総合・①千葉。一般男子・①東京=V2、②千葉。教員男子・①千葉、②和歌山。高校男子・①福岡、②鹿児島</p> <p>10.30 全国警察柔道大会(日本武道館) 1部・①警視庁=V2、②神奈川、2部・①福岡、②大分</p> <p>11.3 第25回全日本学生柔道選手権大会(大阪府立体育会館) 軽量級・蔵本孝二(拓殖)、中量級・松本 薫(天理)、選手権・白瀬英春(東海)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.4 第25回全日本学生東西対抗柔道試合(大阪府立体育会館) 西軍、不戦5人で8年ぶりに優勝。</p> <p>11.7 第22回全国青年大会柔道競技(講道館) 団体:守口市。軽量級・茂手木健二(茨城)、中量級・大坂徳一(秋田)、無差別・中村洋一(大阪)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.11 第9回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育館) ①警視庁、②博報堂、③旭化成、新日本製鉄</p> <p>11.23 第21回全日本産業別柔道大会(講道館) 繊維部門が連覇。</p> <p>11.24 第5回全日本新人柔道体重別選手権大会(札幌市) 軽量級・秋本勝則(拓殖大)=V2、中量級・栗崎誠三(拓殖大)、重量級・吉岡 剛(嘉穂高)がそれぞれ優勝。</p>	<p>9.22 日朝スポーツ交流 朝鮮民主主義人民共和国(以下、北朝鮮)の招聘により、細川熊蔵団長以下14名が平壤にて親善試合及び稽古を行った。</p> <p>10.8</p> <p>10.31 敗者復活戦の勝者は3位に IJFスポーツ委員会(ロンドン)において「優勝者はその大会の一連の試合に一度も負けた事のない者を原則とする」との総会決議を受けて、敗者復活戦の最終勝者2名を共に3位とした。審判規定の改正、抑え込みが宣告された後において、場内外間際の試合者を「そのまま」と宣告して、試合場内に引き戻すことは廃止し、試合者の一方の身体の一部でも試合場内に触れている場合は継続とする。「有効」「効果」のゼスチャーの制定。など</p> <p>女子柔道は、IJFの管轄下に行われることとなり、各大陸連盟での案を持ち寄り次回討議することとなった。また、五大大陸の中で3大陸が女子選手権を実施し、その成果が挙げれば女子世界選手権を催し、オリンピックにも採用する。その目標を1980年のオリンピックに置くとの申し合せが行われた。</p>
昭和49(1974)	<p>3.27 日本女子柔道の初試合 講道館女子部道場にて、初の女子柔道の公開試合を行った。選手は3段3、2段4、初段3、1級6の計16名。トーナメント4回戦まで実施し、決勝は行わず。</p>	<p>2.2 フランス国際柔道大会(パリ) 3階級に3名出場。12カ国99名。軽中量級・古川 宏(天理大)及び重量級・遠藤純男(警視庁)が優勝。中量級・原 吉実(明治大)は僅差で敗れ3位。</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>5.5 全日本柔道選手権大会(日本武道館) 佐藤直誠(東海大教)が初優勝、②二宮和弘(福岡県警)、③重松義成(博報堂)、遠藤純男(警視庁)</p> <p>5.22 全国警察柔道選手権大会(日本武道館) ①遠藤純男(警視庁)、②高木長之助(警視庁)、③上口孝文(警視庁)、二宮和弘(福岡県警)</p> <p>6.9 第24回全日本実業団対抗柔道大会(鳥取市) 1部・新日本製鉄が0-0から代表戦8人目で旭化成を降し5連覇。2部・①新日鉄広畑、②旭化成</p> <p>6.22 第23回全日本学生柔道優勝大会(日本武道館) -23 天理大が連覇、通算7度目。②東京教育大、③明治大、日本大</p> <p>7.7 第7回全日本選抜体重別柔道選手権大会(福岡市民体育館) 軽量級・南喜陽(新日本製鉄)=V2、軽中量級・蔵本孝二(神奈川県警)、中量級・藤猪省三(京都産大教)、軽重量級・岩田勝彦(宮崎県警)、重量級・遠藤純男(警視庁)がそれぞれ優勝。</p> <p>7.13 第6回全日本新人柔道体重別選手権大会(講道館) 軽量級・八反田耕二(天理大)、秋本勝則(拓殖大)=V3、中量級・七条和己(天理大)、軽重量級・高橋政男(天理大)、重量級・吉岡剛(嘉穂)=V2、がそれぞれ優勝。</p> <p>7.23 第48回金鷲旗高校柔道大会(福岡市民体育館) -24 ①九州学院(熊本)、②国士館(東京)、③鎮西(熊本)、嘉穂(福岡)</p> <p>8.2 第23回全国高等学校柔道大会(飯塚市) 団体:地元・嘉穂が連覇、②鎮西(熊本)、③近大福山(広島)、天理(奈良)。個人:軽量級・寺町良次(新田)、中量級・西田孝宏(大牟田)、重量級・吉岡剛(嘉穂)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.16 第5回全国中学生柔道大会(講道館) 東海中(愛知)が熊本勢の5連覇を阻み優勝、②天明中(熊本)、③吉田中(埼玉)、鹿児島南中(鹿児島)</p> <p>8.25 第4回全日本実業柔道個人選手権大会(大阪市立修道館) 1部・組坂英満(博報堂)、2部・佐々木伸行(東レ滋賀)、3部・薦田茂久(旭化成)、4部・渡辺一男(新日鉄広畑)がそれぞれ優勝。</p> <p>8.25 第5回全国高等学校定時制通信制柔道大会(講道館) 団体:千葉が優勝。</p> <p>10.21 第29回国民体育大会柔道競技(日立市) 競技 -23 別総合・①東京。一般男子・①東京=V3、②神奈川。教員男子・①茨城、②和歌山。高校男子・①福</p>	<p>2.15 ソ連国際柔道大会(トビリシ) 5階級に5名出場。12カ国100名。軽量級・①伊志嶺朝秋(日本中央競馬会)、中量級・③吉永浩二(明治大)、重量級・①上村春樹(旭化成)。IJF新規定により「有効」「効果」が加わったが、周知不足により混乱も。</p> <p>3.13 日英対抗柔道大会(講道館) 日本選抜チームと英国ナショナルチームとの親善試合が行われ、6-0で快勝。</p> <p>9.14 第1回世界ジュニア柔道選手権大会(ブラジル・リオ) 3階級に出場し、軽中量級・秋本勝則(拓殖大)、中量級・七条和己(天理大)、重量級・吉岡剛(嘉穂高)が共に優勝。</p>

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>岡=V2、②東京</p> <p>10.29 全国警察柔道大会（日本武道館） 1部・①警視庁=V3、②大阪、2部・①京都、②愛媛</p> <p>11.2 第26回全日本学生柔道選手権大会（大阪府立体育会館） 軽量級・古川 宏（天理）、中量級・野瀬清喜（東京教育）、選手権・喜納政美（日本）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.3 第26回全日本学生東西対抗柔道試合（大阪府立体育会館） 東軍、不戦2人で優勝。</p> <p>11.8 第23回全国青年大会柔道競技（講道館） 団体：-9 飯塚市。軽量級・吉留義文（福岡）、中量級・大北友義（北海道）、無差別・津志田広人（熊本）がそれぞれ優勝。</p> <p>11.10 第10回全日本選抜柔道団体優勝大会（愛知県体育館） 神奈川県警が初優勝、②大阪府警、③旭化成、新日本製鉄</p> <p>11.23 第22回全日本産業別柔道大会（講道館） 繊維部門が3連覇。</p>	<p>10.26 オーストリア国際柔道大会（ウィーン） プレ世界柔道選手権大会として開催。4階級に4名出場。軽量級・鈴木克美（東海大）、重量級・上村春樹（旭化成）が優勝。軽中量級・②伊志嶺朝秋（日本中央競馬会）</p> <p>11.1 第4回世界大学柔道選手権大会（ベルギー・ブリュッセル） 軽量級・森脇保彦（国士舘大）、中量級・原 吉実（明治大）、軽重量級・石川裕章（中央大）、重量級・角張 力（天理大）、無差別・丸谷武久（明治大）の5階級及び団体で優勝。軽中量級・②五反田祝好（東海大）</p> <p>11.2 第3回アジア柔道選手権大会（韓国・ソウル） -4 全6階級制覇。軽量級・南 喜陽（新日本製鉄）、軽中量級・蔵本孝二（神奈川県警）、中量級・藤猪省三（京都産大教）、軽重量級・岩田勝彦（宮崎県警）がそれぞれ優勝。無差別は藤猪省三が重量級の遠藤純男（警視庁）を下し二冠。</p> <p>11.16 日本・東独親善柔道大会（講道館） 東京選抜が勝つ。</p> <p>11.30 ヨーロッパ女子柔道選手権大会はじまる 従来より7～8国で行われていたが、参加国を増やし今回を正式に「第1回」とした。</p>
昭和50 (1975)	<p>2.3 日本柔道育英学会 発足</p> <p>4.29 全日本柔道選手権大会（日本武道館） 上村春樹（旭化成）が2年ぶりのV、②高木長之助（警視庁）、③山下泰裕（東海大相模高）、篠巻政利（新日本製鉄）</p> <p>女子柔道試合2試合を公開 全日本選手権において、形の演武のあと、女子の柔道の形、乱取に続いて、特選2組の女子の試合が初めて公開された。</p> <p>5.7 英国女王歓迎スポーツ模範演技（代々木第二体育館） 来日中の英国・エリザベス女王及びエジンバラ公に日本スポーツの模範演技を紹介する催しがあり、柔道からは世界選手権者の乱取、女子柔道の形、指導稽古を行った。</p> <p>5.14 全国警察柔道選手権大会（日本武道館） ①高木長之助（警視庁）、②上口孝文（警視庁）、③諸井三義（神奈川）、二宮和弘（福岡）</p> <p>6.8 第25回全日本実業団対抗柔道大会（千葉市） 1部・リーグ戦で3チームが1勝1敗で横並び、代表1名によるリーグ戦を制した旭化成が優勝、②博報堂。2部・①新日鉄広畑=V3、②三井建設</p> <p>6.10 「講道館柔道試合審判規定」改正 「技ありに近い技」として「有効」が認められ、ゼスチャーが定</p>	

年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	められた。など	
6.21	<b>第24回全日本学生柔道優勝大会</b> (日本武道館) -22 日本大が東洋大を代表戦3回目で降し3度目の優勝。③明治大、東海大	
7.23	<b>第49回金鷲旗高校柔道大会</b> (福岡市民体育館) -24 東海大相模 (神奈川) が初優勝し、“金鷲旗”が初めて関門海峡を渡った。②嘉穂 (福岡)、③大牟田 (福岡)、鎮西 (熊本)	
8.5	<b>第24回全国高等学校柔道大会</b> (日本武道館) -7 団体:東海大相模が嘉穂 (福岡) を代表戦で下し初優勝。③鹿児島商業 (鹿児島)、天理 (奈良)。 個人:軽量級・阿部新二 (加茂水産)、中量級・西田孝宏 (大牟田) =V2、重量級・山下泰裕=2度目、がそれぞれ優勝。	
8.16	<b>第6回全国中学生柔道大会</b> (講道館) ①九州学院中 (熊本)、②北本中 (埼玉)、③新居中 (静岡)、香椎一中 (福岡)	
8.24	<b>第6回全国高等学校校定時制通信制柔道大会</b> (講道館) 団体:千葉=V2、個人:清水英二 (神奈川) が優勝。	
8.30	<b>第5回全日本実業柔道個人選手権大会</b> (大阪市立修道館) 1部・山家久博 (東レ滋賀)、2部・小林次男 (博報堂)、3部・竹下盛史 (川鉄千葉)、4部・斎藤宣明 (東レ滋賀) がそれぞれ優勝。	
9.7	<b>第8回全日本選抜柔道体重別選手権大会</b> (福岡市民体育館) 軽量級・柏崎克彦 (多賀高教)、軽中量級・蔵本孝二 (神奈川県警) =V3、中量級・園田 勇 (福岡県警) =4度目、軽重量級・石橋道紀 (日本大)、重量級・上村春樹 (旭化成) がそれぞれ優勝。	
10.15	<b>全国警察柔道大会</b> (日本武道館) 1部・①警視庁=V4、②福岡県。2部・①熊本、②富山	
10.27	<b>第30回国民体育大会柔道競技</b> (名張市) 国体の全種目共通で全面的に改編されることになり、参加資格は4月1日現在で18歳以上の者を成年の部、18歳未満に者を少年の部の二本建てとなった。競技別総合・①三重。成年男子 (一般) ・①東京=V4、②宮崎。成年男子 (教員) ・①和歌山、②三重。少年男子・①神奈川、②愛媛	
11.1	<b>第27回全日本学生柔道選手権大会</b> (大阪府立体育会館) 軽量級・五反田祝好 (東海)、中量級・野瀬清喜 (東京教育) =V2、重量級・知念利和 (東海) がそれぞれ優勝	
11.2	<b>第27回全日本学生東西対抗柔道試合</b> (大阪府立	
		10.22 <b>IJF総会</b> (ウィーン) パーマー会長3選、川村禎三・スポーツ理事再選。
		10.23 <b>第9回世界柔道選手権大会</b> (オーストリア・ウィーン) ソ連・東欧勢に苦戦し4階級制覇にとどまる。軽量級・①南 喜陽 (新日本製鉄) =V2、②柏崎克彦 (多賀高教)。軽中量級・③秋本勝則 (拓殖大)、③蔵本孝二 (神奈川県警)。中量級・①藤猪省三 (京都産大教) =V3。軽重量級・②石橋道紀 (日本大)、岩田久和 (新日本製鉄) は4回戦敗退。重量級・①遠藤純男 (警視庁)、③高木長之助 (警視庁)。無差別・①上村春樹 (旭化成)、②二宮和弘 (福岡県警)。 日本選手団:団長・広瀬 巖 (強化委員長・近畿管区警察学校教)。監督・醍醐敏郎 (警察大教)、コーチ・佐藤宣践 (東海大教)。ドクター・関



年	全柔連の歴史・国内の柔道界	世界の柔道及び日本の成績
	<p>体育会館) 東軍、11人を残して連勝。</p> <p>11.7 第24回全国青年大会柔道競技(講道館) 団体: - 8 金沢市。軽量級・西 和夫(石川)、中量級・荒瀬 雅次(岡山)、無差別・正 寿暁(大阪)がそれぞれ優勝。</p> <p>11.9 第11回全日本選抜柔道団体優勝大会(愛知県体育館) ①警視庁、②旭化成、③愛知県警、博報堂</p> <p>11.23 第23回全日本産業別柔道大会(講道館) 織維部門が4連覇。</p> <p>11.30 第7回全日本新人柔道体重別選手権大会(福岡市民体育館) 軽量級・寺町良次(新田高)、軽中量級・名和孝徳(拓殖大)、中量級・日齒暢年(国士館大)、軽重量級・富田康之(東海大)がそれぞれ優勝。重量級は山下泰裕(東海大)が「三羽鳥」の松井 勲(筑波大)、吉岡 剛(中央大)を一蹴して優勝。</p>	<p>口恒五郎(普及委員長) 日本人審判員:松本安市、神永昭夫、松下三郎</p> <p><b>敗者復活制度</b> 1965(昭和40)年のリオデジャネイロ世界選手権から続いた敗者復活方式における予選・決勝トーナメントの併用は、予選で一度負けても優勝することが可能であったため(ミュンヘン五輪では優勝者6名の内、半数の3名が敗者復活戦で勝ち上がった選手であった)、システムに疑問が投げかけられ、ウィーン世界選手権より敗者復活制度を改正。敗者復活戦の勝者を3位止りとした。これにより、トーナメントでの優勝者は一度も負けなかった者、3位は一度敗れた者のなかでの強者という、現在まで続く方式が確立された。1987(昭和62)年のベオグラードの世界選手権からは、3位決定戦で反対側のゾーンの選手と対戦するというヨーロッパ方式(ダブルリパチャージ)が採用されている。</p>

敬称略。

段位は、頁の都合上割愛した。

大会記録は、講道館雑誌『柔道』各号に掲載されている大会記録を底本として、他の出版物、大会パンフレット等も参照した。

各階級の名称については、平成4年度より統一された名称である「kg級」をさかのぼって使用した。

## 参考・引用

嘉納先生伝記編集会 1964『嘉納治五郎』講道館

全日本柔道連盟 1979『全日本柔道連盟創立30周年記念誌 30年の歩み』

講道館 1988 嘉納治五郎大系別巻『柔道試合記録』本の友社

講道館 1996 現代柔道人物叢書別巻『柔道試合記録』本の友社

『柔道』バックナンバー各号 講道館

『近代柔道』バックナンバー各号 ベースボール・マガジン社

『柔道新聞』バックナンバー各号 日本柔道新聞社

醍醐敏郎・佐藤宣践 監修 1986 激動のスポーツ40年史『戦後柔道その栄光と変遷』ベースボール・マガジン社

ベースボール・マガジン社編 1989 激動の昭和スポーツ史16『柔道』ベースボール・マガジン社

工藤雷介・横尾一彦 監修 1984 ゴング9月号増刊『柔道100人』日本スポーツ出版社

財団法人日本体育協会 1965『東京オリンピック選手強化対策本部報告書』

財団法人日本体育協会 1970『日本スポーツ百年』

財団法人日本体育協会 1987『日本体育協会七十五年史』

財団法人日本オリンピック委員会 1994『近代オリンピック100年の歩み』ベースボール・マガジン社

全日本実業柔道連盟 1990『実業柔道40年の記録』日本学生柔道連盟 1992『学生柔道40年のあゆみ』

工藤雷介『柔道新聞 縮刷版』第1～4巻 五月書房

『朝日新聞 縮刷版』朝日新聞社

『毎日新聞 縮刷版』毎日新聞社

『読売新聞 縮刷版』読売新聞社

尾形敬史・小俣幸嗣・鮫島元成・菅波盛雄 1998『競技柔道の国際化』不味堂

竹内善徳・小俣幸嗣・尾形敬史 1999『柔道のルールと審判法』大修館書店